

K141.71

3

1a

高等小學新定畫帖

文部省



第一學年教師

高等小學新定畫帖

文部省





高等小學新定畫帖

第一學年教師用

文部省

大正
11.4
丙寅

凡 例

- 一。本書は尋常小學新定畫帖に連絡して高等小學校圖畫科の教科書に充つるため編纂したるものにして、各學年とも教師用書と兒童用書との二種とす。
- 二。本書教師用は一學年間の教授週數を四十週とし、毎週教授時間を一時間として之に相當する分量の教材を選択し總べて之を説明したり。
- 兒童用書には教師用書に説明したる材料の中につきて臨畫せしむるもの及び寫生並びに考案畫の參考資料として必要な材料を選出して之を掲げたり。
- 三。本書は尋常小學新定畫帖と同様に鉛筆畫・毛筆畫てふ用具上よりの區別を廢し、鉛筆と毛筆との何れをも使用せしむることとしたり。
- 四。自在畫の教授を完全にせんには、時時尺・度・三角定規・コンパス等を用ひて正確なる形態を畫かしむることも亦必要なを認め、左表の如き配當によりて是等の器具の使用にも慣れしめんことを期したり。

用器畫と自在畫との教授時間の割合は凡そ左表の如し。

五、圖畫の種類を臨畫、寫生、記憶畫、考案畫の四種とし、其の敎授時間は凡そ左表の

如き割合によりて各學年の教授題目を選擇したり。

六.本書に選擇したる寫生材料は各地方にて成るべく得易きものを標準として選擇したり。然れども土地によりては尙得難きものあるべければ便宜之を變更するも可なり。

七、季節と關係ある教材は十分注意して之を排列したれども、地方によりては尙變更すべき必要あるべければ、適切な時期に於て便宜之を教授すべし。

八。本書は技術の練習に注意したるが故に、植物類、昆虫類等の如き種類により、同一種類のものを或時期間連続して練習せしむることになしたり。

九。本書の教師用書にありては、教授上の便を計りて、各課とも要旨準備、教授の三項目に分ちて記述し、教授の項は更に觀察説明、問答、畫方注意等の小項目を掲げ、觀察説明、問答等の要點並びに畫方の方法を述べ、又描寫の際兒童が陥り易き弊並びに將來心得置くべき必要條件等を記したり。各項とも記述事項を一括して記したるが故に、教授者は之を分解して便宜の教授案となすべし。

一〇。本書には畫用紙の廣さを定めず、されば教授時間の長短、用具の大小、圖畫の粗密等によりて便宜之を定むべし。

一一。本書の兒童用書には毛筆若しくは鉛筆のみにて畫きたる畫を掲げたれども、便宜、木炭其の他の材料を使用せしむるも可なり。

目録

第一學期

第一課	相貫體の工作圖(説明と臨畫)(兒童用第一圖).....	一
第二課	指口の工作圖(寫生).....	七
第三課	薔薇の花(寫生)(兒童用第二圖).....	一〇
第四課	芍藥(寫生)(兒童用第三圖).....	一三
第五課	花(記憶畫).....	一五
第六課	昆虫類(寫生)(兒童用第四圖).....	一七
第七課	虫類(記憶畫).....	一九
第八課	模様の組立(考案畫)(兒童用第五圖).....	二〇

第二學期

第九課	切斷面の工作圖(説明と寫生)(兒童用第六圖).....	二五
第十課	茶盆の切斷面工作圖(寫生).....	三一

第十一課	川口の景色(臨畫)(兒童用第七圖).....	三二
第十二課	野菜類(寫生)(兒童用第八圖).....	三五
第十三課	果實及び野菜類(寫生).....	三七
第十四課	魚類(臨畫)(兒童用第九圖).....	三八
第十五課	乾魚類(寫生).....	四一
第十六課	器物の形(説明と考案畫)(兒童用第十圖).....	四二
第三學期		
第十七課	田舎の景色(臨畫)(兒童用第十一圖).....	四六
第十八課	組手の工作圖(説明と寫生)(兒童用第十二圖).....	四九
第十九課	煙草盆の工作圖(寫生).....	五三
第二十課	模様(考案畫)(兒童用第十三圖).....	五四
外	鳥の各種の姿勢(參考圖)(兒童用第十四圖).....	五六
外	鳥の各部の形(參考圖)(兒童用第十五圖).....	五八
第二十一課	鳩(寫生)(兒童用第十六圖).....	六一

高等小學新定畫帖 第一學年教師用

第二學期

第一課 相貫體の工作圖 (兒童用第一圖)

説明と臨畫 二時間

要旨

相貫體の工作圖の畫方を授けて、指口の畫方練習をなす。

準備 方柱の相貫體、並帶の指口。

教授

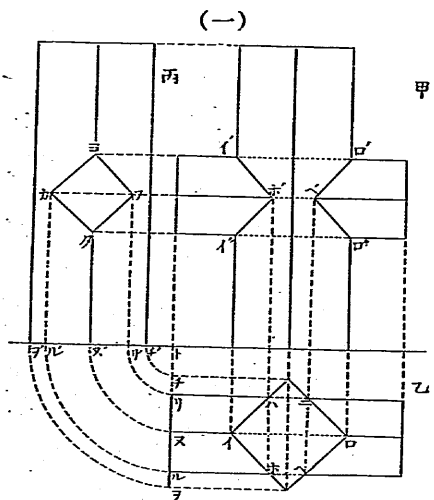
一。問答

尋常小學校にて授けたる製圖用の實線・點線・破線・鏈線の名稱及び各線の用途につきて問答し、且正面圖・平面圖・側面圖

を書く位置を復習すべし。

二、説明と畫方

(一) 方柱の相貫體 此の相貫體は直立せる大なる方柱の中央を小なる方柱が貫けるものにして、大なる方柱には小なる方柱の刺さるべき方形の孔を有することを知らしむべし。

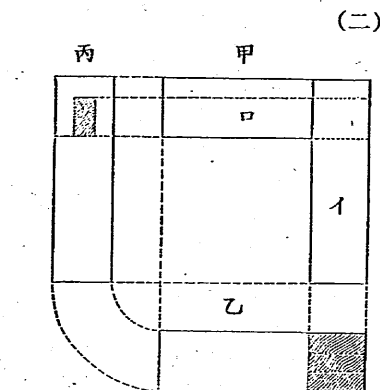


甲圖は正面圖、乙圖は平面圖、丙圖は側面圖なり。之を畫くには、直立せる大なる方柱の平面圖を乙圖の如く正方形に畫き、其の直上に

正面圖を甲圖の如く畫き、次に小なる方柱の正面圖を甲圖の如く大なる方柱の中央に畫き、乙圖の如く小なる方柱の平面圖を畫き、而して小なる方柱の三つの稜を大なる方柱の平面圖と交らしめ、ハ・イ・ホ・ヘ間を點線にて結合し、而して後ハ・ホを過ぐる垂直なる破線を畫き、甲圖の小なる方柱の稜ハ・ホ・ヘにて交らしめ、イ・ロ・ホ・ヘを結合す。然る時は、其の線は大小の方柱の交りたる界を表すものなり。丙圖はトを中心とし、チ・リ・ヌ・ル・ヲを半徑として弧線を畫きて、チ・リ・ヌ・ル・ヲを求め、チ・ヌ・ヲを過ぐる垂直線を引き、甲圖の大なる方柱と同じ高さに切り、大なる方柱の側面圖を作り、次にリ・ルを過ぎて垂直なる破線ヲ・ワを畫き、甲圖のハ・ホを延長したるものとワ及び力に於て交らしめ、イ・グ・ロ・ハの延長とヨ・タに於て交らしむ。而

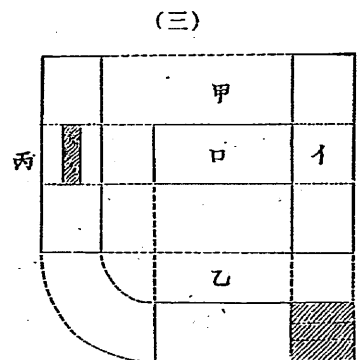
して後ヨ・ワ・タ・カを結合す、然る時は小なる方柱の側面圖を得べし。

(二) 並蒂の指口(其の一) 並蒂の指口は蒂及び蒂孔を柱の幅の三分の一に作りたるものなり。之を畫くには、甲圖に示したるが如く、先づ直角に交る二つの柱イ・ロを畫き、イ柱に刺



さりたるロ柱の蒂の幅を點線にてイ柱の面に表す。次に乙圖の如く平面圖を畫き、イ柱の小口にロ柱の蒂の厚さを點線にて記し、更に丙圖を畫きてイ柱の側面にロ柱の蒂の小口を實線にて畫き、ロ柱は見えざれば之を點線にて畫くべし。

(三) 並蒂の指口(其の二) 此の並蒂は一つの柱の中央に他の柱を刺したるものにして、蒂の厚さは前者と同様に柱の幅の三分の一に作りたるものなり。之を畫くには、甲圖に示し



たるが如く、先づ二つの柱を一つの柱の中央にて直角に交らしめたる正面圖を畫き、蒂の幅を點線にて記し、次に乙圖の如く平面圖を畫きて、蒂の厚さを點線にて畫く。側面圖は丙圖の如くイ柱の側面を畫き、其の中央にロ柱の蒂の小口を實線にて記して、蒂の幅と厚さとを表し、ロ柱の形を表す線を點線にて記すべし。

線描を了りて後、兒童用書に示したる如く、淡岱赭色にて彩色せしむべし。淡岱赭色は材料の木材なることを表示するに用ふる色なり。彩色には、全部を平塗にする場合と、線に沿ひて五六厘幅に彩色する場合とあり。前者は多く縮圖に用ひ、後者は實尺圖又は製圖の廣き場合に於て手数を省くために之を用ふるを慣例とす。後者の如く線に沿ひて彩色する場合に於ては、一つの線の兩側に彩色するものと、一方だけに彩色するものとあり。一つの線の一方の面高く、一方の面低き場合には、高き面を表す方に彩色し、(二)(三)圖に於ける指口の接合部を表す線の兩側の如く面の高さ等しき場合には、線の兩側に彩色を施すものとす。

三. 注意

(二)(三)圖に於て、小口には曲線を入れて他の面との區別をなしたり。かく小口を表すために用ふる曲線と切斷面を表すために用ふる平行なる直線とは之を混同せざるやう注意すべし。

教授時間の都合によりて、指口のみを畫かしむるも可なり。

第二課 指口の工作圖

寫生 二時間

要旨

二枚帯の指口を畫かしめて、相貫體の工作圖の畫方練習をなす。

準備 二枚帯の指口。

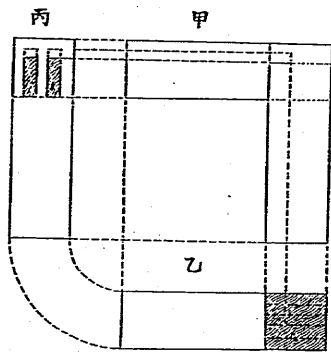
教授

一。説明と畫方

本圖に示したるものは、二枚蓆と稱するものにして、指口を堅牢にするために蓆の數を増したるものなり。蓆にある段は指口を成るべく丈夫ならしむるために蓆の本の幅を廣くするとき出来るものなり。

蓆の厚さは柱の幅を五等分して其の五分の一の厚さに作りたるものなり。

此の指口を畫くには、甲圖に示したるが如く、二つの柱を直角に交らしめたる正面圖を畫き、雌木に



刺さりたる雄木の蓆の部分を點線にて記し、次に第一課の(二)(三)圖を畫きたると同様に、正面圖の直下に平面圖乙を畫き、正面圖の左方に側面圖丙を畫きて蓆の形狀指口の構造を表すべし。

二。注意

前課に於て授けたる彩色法によりて、木材の全面を淡く彩色せしむべし。

教授時間の都合によりて寸法線をも記し寸法を記入せしむべし。

本圖は指口の例として示したるものなれば便宜之を變更するも可なり。

第三課 薔薇の花 (兒童用第二圖)

寫生 二時間

要旨

薔薇の花によりて種種の方向より見たる花の形狀を觀察せしめ、且其の畫方を授けて、鉛筆にて花を畫く練習をなす。

準備 薔薇の花。

教授

一。説明

兒童用書に示したるものは、満開の花、半開の花蕾、並びに落花したるものを畫き、且満開の花につきては、前向・後向・左向の三種を示して、其の方向と形狀の變化との關係を示した

るものなり。而して満開の花の側に畫きたる大體の輪廓は各花の著しく突出したる點及び瓣と瓣との界を看取して畫きたるものにして、花の輪廓を定むる最初の方法を示したるものなり。

花を畫くには、かくの如く先づ大體の輪廓を定めたる後、更に各花瓣の區劃を看取して、次第に花瓣・萼の細部分を記し、次に莖を畫くを可とす。本圖は更に花瓣に淡赤色、萼及び花梗に淡綠色、莖に岱赭墨の淡きものを施したるものなり。

本圖の如き畫方は鉛筆畫を主とし、彩色は單に實物の色別を示したるに過ぎざるものなれば、鉛筆にて畫くことに十分意を用ひ、彩色は鉛筆畫の妙味を害せざる程度に於て淡彩を施し、決して複雑なる濃淡を施すべからず。以下鉛筆に

て畫きたるものに淡彩を施したるは、皆此の意味にて彩色したるものなり。

二. 觀察と畫方

準備したる薔薇の花を種種の位置に置き、兒童用書中にある圖と對照して、其の花弁並びに萼片の形狀の變化、各部の色彩、明暗等につきて觀察せしめ、然る後手本を參考して任意に形狀・色彩・陰影を寫生せしむべし。

三. 注意

薔薇は便宜他の花に變更するも可なり。

兒童は如何なる方向の花にても、多くは正面圖の如く畫くものなれば、花の方向と形狀の變化との關係、並びに花瓣の卷返りたる部分の畫方につき特に注意せしむべし。

第四課 芍藥

(兒童用第三圖)

寫生 二時間

要旨

芍藥を畫かしめて、毛筆にて花を畫く練習をなす。

準備 芍藥の花。

教授

一. 説明

兒童用書には花と蕾とを示したるものにして、花は殆ど平にして上向になれる所を畫きたるものなり。

此の圖は、第二圖に示したる薔薇の花につきて述べたると同様に、花の著しく突出したる點を看取して輪廓を定め、開

きたる花は先づ適當の菱形を畫きて、花の上面と前側面とを區劃し、之に莖をつけ、蕾は適宜の四角形の輪廓を畫きて、之に莖をつけ、次に葉の位置を定め、葉柄と葉との大體を畫き、更に花の各瓣と葉の縁とを訂正し、後淡墨にて花瓣、濃墨にて莖及び葉の線描をなし、實物の有する色を標準として、花葉・莖の順序に彩色したるものなり。莖及び葉の赤みを帶びたる部分は、最初綠色にて彩色し、其の上に適當の赤色を重ねて塗りたるものなり。

二、觀察と畫方

準備したる芍藥の花を示して、花及び葉の方向と其の形狀の變化との關係、色彩陰影等を觀察せしめ、更に如何なる點を看取して輪廓を定むべきか、如何なる部分を淡墨とし、如

何なる部分を濃墨として畫くべきかを考案せしめ、後兒童用書の參考圖につきて説明したる順序によりて任意に寫生せしむべし。

三、注意

白色若しくは淡色の花瓣は淡墨、濃色及び暗色のものは濃墨にて線描し、花瓣及び葉の附着せる所の線は強く畫かしむべく、高き部分或は明き部分を表す線は概して細き線に、低き部分或は陰の部分を表す線は概して太き線に畫かしむべし。

芍藥の代りに他の花を畫かしむるも可なり。

第五課 花

記憶畫 一時間

要旨

種種なる方向より見たる花を記憶によりて畫かしめ、其の形狀の變化につきて確實なる觀念を與ふ。

教授

一。問答と畫方

花の方向と其の形狀の變化との關係、並びに淡墨と濃墨との使用法、細き線と太き線との使用法、輪廓の取方、描寫の順序等につきて問答すべし。

薔薇芍藥其の他の花につき、其の形狀・色彩を問答して思想を整頓したる後、任意に畫かしむべし。

二。注意

成るべく各種の方向より見たる形狀を畫かしむべし。

第六課 昆虫類

(兒童用第四圖)

寫生 二時間

要旨

鉛筆にて虫類を畫く練習をなす。

準備 適宜の昆虫。

教授

一。説明

兒童用書に示せる蜻蛉は平に置きたるものを投影圖法の平面圖に畫きたるものにして、螳螂は横に置きたるものを透視圖法によりて畫きたるものなり。故に螳螂の右翅は殆

と全部隠れ、右脚は左脚と其の形異なれり。蟬及び蟬の脱殻は共に畫者の少しく左方にあるものを透視圖法によりて畫きたるものにして、蟬の左翅は右翅と形を異にし、脱殻は左側面全く見えざる場合なり。

之を畫くには、蜻蛉は先づ體の中心を通ずる基本線を定め、次に翅端と翅根とを標準として略四角形を畫き、次に頭より畫き始めて、胴脚及び翅を畫く。螳螂は先づ體の長さを定めて頭と頸と翅とを區劃し、各部の形を作り脚を畫く。蟬は頭と左右の翅端とを結合して長き梯形を畫き、頭部・胸部・翅の區劃をなし、各部の形を訂正し、最後に脚を畫く。脱殻は脊頭・腹臀の部を通じて適宜の輪廓を畫き、更に各部分の形を訂正し、脚を畫く。

二、觀察と畫方

準備したる標本につきて觀察せしめたる後、任意に畫かむべし。

三、注意

最後に蜻蛉の體と螳螂の全部とに淡綠色を施し、蜻蛉と蟬との翅には淡灰色、眼には淡青色を施し、而して後、蟬の頭部・胸部は淡橙色に少しく青色を混じたるものにて彩色し、脱殻には淡赭色を施さしむるを可とす。

第七課 虫類

記憶畫 一時間

要旨

虫類を記憶によりて畫かしめ、其の形狀につきて確實なる觀念を與ふ。

教授

一。問答と畫方

前課にて畫きたる昆虫類の形狀・色彩・畫方等につきて問答し、思想を整頓したる後、記憶によりて任意に畫かしむべし。

二。注意

用具は鉛筆と毛筆と何れにても可なり。

第八課 模様の組立

(兒童用第五圖)

考案畫 三時間

要旨

不規則なる模様の組立方を授けて、虫類及び植物を應用したる繪模様を考案せしむ。

準備 繪模様ある諸種の器物

教授

一。説明

兒童用書に示したる如き模様を繪模様と稱す。之を器物の表面に用ひたる時は應用模様などとも稱す。

繪模様は尋常小學校第五學年第三十二課、第六學年第二十九課及び第三十八課にて説明したるが如く、或面積を成るべく變化ある様に區劃し、其の内に模様の單位を適當に配置して模様を組立てたるものなり。此の繪模様にありては模様の單位を甚だしく便化せず、自然に近き儘を僅に模様

化して使用したり。

兒童用書に示したるものは参考圖にして、蝶の模様は漆器の印籠蓋香盒の表面と側面とに之を施し、右上方の隅と其の下方とに示したるが如く、蓋の表面及び側面を適宜に區劃し、其の内に大小の蝶を排列したるものなり。彩色は洗朱と稱する色漆にて地を塗り、之に蝶を色漆にて畫き出したる意匠を表したるものなり。

菊の模様は淺き皿の内面及び外面に之を施し、上方の菊は全部皿の内面にあり、又下方の菊は皿の外面にある莖と連續して莖の上部と花の部分とが皿の内面に表れたる如く畫きたるものなり。即ち左上方の隅と其の下方とに示したる如く皿の内面と外面とを畫きて其の面積を適宜に區劃

し、其の内に小菊を適當に組合せて排列したるものなり。彩色は白地に菊を自然の儘の色彩にて畫き出したるものなり。

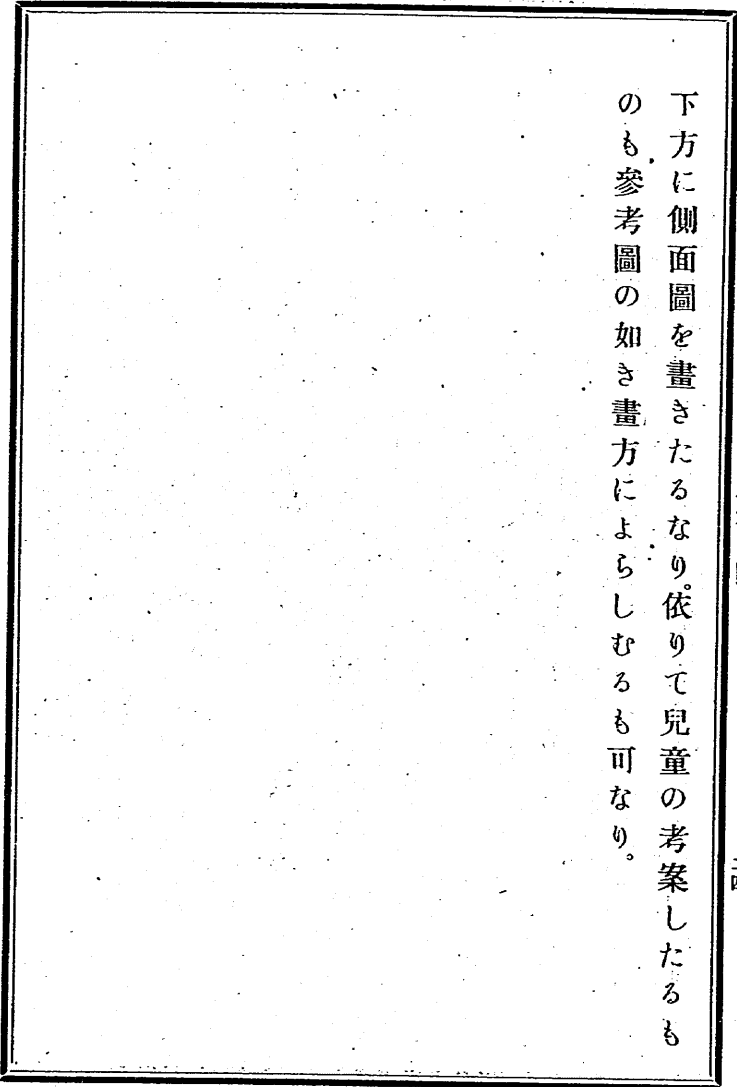
二. 畫方

兒童用書中の参考圖の説明を了りたる後、之を參酌して任意に模様の排列を定めしめ、是まで寫生したる花及び虫類を應用して、適宜の繪模様を畫かしむべし。

三. 注意

便宜コンパス及び定規を使用せしむるも可なり。投影圖法の畫方による時は、香盒の側面圖を上方に畫き、平面圖を其の直下に畫き表すべきものなれども、参考圖は一般圖案家の畫く習慣法によりて、平面圖を上方に畫き、其の

下方に側面圖を畫きたるなり。依りて兒童の考案したるものも、參考圖の如き畫方によらしむるも可なり。



第二學期

第九課 切斷面の工作圖

(兒童用第六圖)

説明と寫生 二時間

要旨

立方體・圓柱・圓筒の切斷面の畫方を授けて、切斷圖法を知らしむ。

準備 立方體・圓柱・圓筒を切斷したる標本。

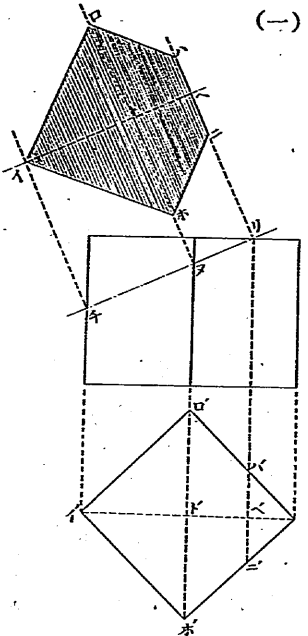
教授

一、説明と畫方

切斷面の圖は、器物の内部の構造或は其の厚さ等の如く、單に外面のみを畫きたる圖にては不明瞭なる點ある場合に、

便宜必要なる部分を切斷して其の切斷面を表し、以て内部の構造或は厚さ等を表示するに用ふるものなり。

(一) 立方體の切斷面 立方體を(一)圖に於ける鏈線の如き方向に平面を以て切斷したる標本を示して之を觀察せしめ、其の切斷面はイロハニホの如く五角形をなし、イハチに等しく、ホはロに等しく、ハニはバニに等しきことを知らしむべし、之を畫くには先づ立方體の正面圖と平面圖とを畫き、正面圖に切斷せん



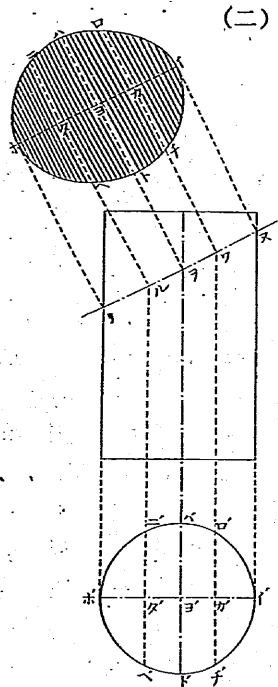
向に平面を以て切斷したる標本を示して之を觀察せしめ、其の切斷面はイロハニホの如く五角形をなし、イハチに等しく、ホはロに

とする部分チに鏈線を入れ、チに平行にイを畫き、次に鏈線と立方體の稜と交りたるチ・ヌ・リの三點よりチに垂直にイ・ヌ・リを畫き、イとイ・ト・ヘにて交らしめ、而して後ロの長さに等しくト・トホを取り、又ヘに等しくヘ・ニを取り、イロハニホを結合する時は求むる切斷面を得べし、而して切斷面には圖の如く平行線を入れて他の面と區別す。

兒童用畫に示したる立方體は木材にて作りたることを表す爲、淡岱赭色にて彩色したり、切斷面は他の面よりも少しく濃く彩色して、他の面との別を明かにするを例とす。

(二) 圓柱の切斷面 圓柱を(二)圖に於ける鏈線の如き方向に平面を以て切斷したる標本を示して之を觀察せしめ、其の切斷面はイロハニホヘトチの如く橢圓形をなし、イハはリに、

ロチは、ロチに、ハハに、ハハに等しきことを知らしむべし。



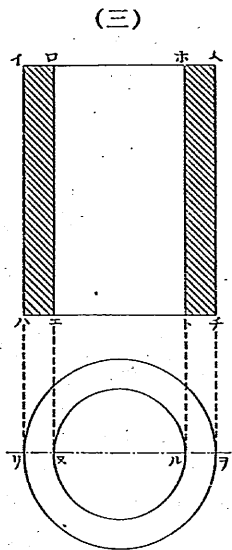
之を書くには、
先づ圓柱の正
面圖と平面圖
とを畫き、正面
圖に切斷線
を引き、之と平

行にイハを畫き、ハハに垂直にリ及びヌを過ぐる。ハハを畫き、更に又中心線と切斷線との交點を過ぐるヲハを畫き、尙任意の點ル・ワを取りてル・ロを畫き、且中心線に平行にル・ハを畫き、カ・ロに等しくカ・カチを取り、ハハに等しくヨ・ハチを取り、ハハに等しくヌ・ハチを取りてイロハニホヘトチイの間を曲線定規にて結

合し、圖の如く平行線を入れて他の面と區別す。

彩色にて鐵材を表示するには淡青色を用ふ。故に兒童用書に示したるものは鐵材にて作りたる圓柱なるを表したるものなり。此の彩色に於て前者と異なる所は輪廓線のみに沿うて施したるにあり。

(三) 圓筒の切斷面 圓筒を (三) 圖に於ける鏈線の如き方向に



平面を以て切斷したる標本を示して之を觀察せしめ、其の切斷面はハハの如き二つの長方形をなし、其の高さは、圓筒の高さに等しく、各長方形の幅は圓筒の厚さに等しきこと

を知らしむべし。

之を畫くには、先づ圓筒の正面圖と平面圖とを畫き、平面圖に、其の中心を過ぎて切斷線ヲを入れ、又及びルを過ぎて切斷線に垂直なる メ・ロ・ホ を畫き、正面圖に於て ニ・ロ・ト・ホ に交らしむべし。然る時は イ・ロ・ニ・ハ・ホ の長方形を得、即ち求むる圓筒形の切斷面なり。

彩色にて眞鍮材を表示するには淡黄色を用ふ。故に兒童用書に記したる圓筒は眞鍮なることを示せるものなり。

二. 注意

工作圖は正確に畫き、彩色に斑點なき様にすることに注意せしむべし。

彩色を施さざる場合にても、切斷面には平行線を入れて他

の面との區別をなし彩色を施す時は切斷面には他の面よりも濃色を用ふることに注意すべし。

第十課 茶盆の切斷面工作圖

寫生 二時間

要旨

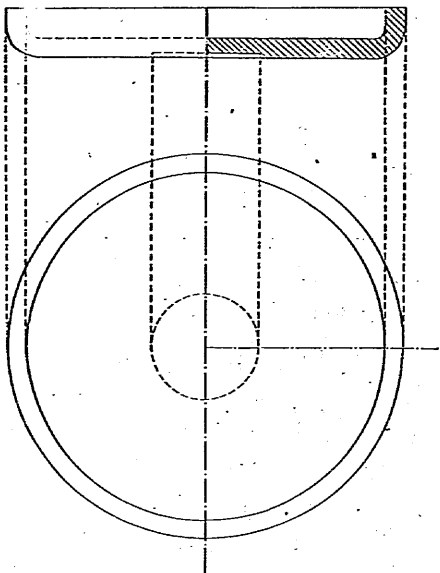
茶盆の工作圖を畫かして、切斷面の畫方練習をなす。

準備 茶盆。

教授

一. 問答

切斷面の畫方の順序、



第十課 茶盆の切斷面工作圖

切斷面と他の面とを區別する法、彩色法等につきて問答すべし。

二。觀察と畫方

本圖の如き茶盆を示して之を觀察せしめ、次に圖の如く切斷して側面並びに底面の厚さを表す切斷面を畫くべきことを命じ、先づ看取圖を畫きて製圖上必要なる寸法を記入せしめ、後正確に製圖せしめ、更に彩色を施さしむべし。

三。注意

前課に同じ。

第十一課

川口の景色

(兒童用第七圖)

臨畫 二時間

要旨

川口の景色を畫かしめて、毛筆にて景色を畫く練習をなす。
教授

一。説明

兒童用書に示したる川口の景色は水量多く、流極めて緩なる川口に船を繋ぎたる趣を畫きたるものなり。

二。觀察

本圖は川・船・遠山を横に並べたるが故に、向岸は舟の帆・遠山は向岸の木・近き川岸は杙にて之を切り、横に並びたる線に變化をつけて美化したる點に留意せしめ、更に川岸・川幅・遠山・空の面積の割合並びに各部の色彩を觀察せしむべし。

三。畫方

用紙の中央より稍、下方に地平線を定め、地平線の上方に向
の川岸と遠山との輪廓を定め、先づ近くの二艘の船と川岸
と杙とを畫き、次に帆掛船を入れ、然る後、向の川岸並びに木
と帆掛船とを淡墨、近くの二艘の船と川岸とを中墨、杙を濃
墨にて線描し、遠山、木、向の川岸、近くの船、水面、杙、川岸に淡墨
の隈取を施し、其の上に更に淡青色にて遠山と水面とを塗
り、淡綠色にて向の川岸と木とを塗り、淡岱赭色にて船の内
外並びに近くの川岸と杙とを塗らしむべし。

四。注意

淡墨・中墨・濃墨の區別を明瞭にし、且成るべく毛筆にての線
の畫方に注意せしむべし。
船の胴にある横木は船梁と稱す。

第十二課 野菜類

(兒童用第八圖)

寫生 二時間

要旨

鉛筆にて野菜類を正しく畫く練習をなす。

準備 適宜の野菜類。

教授

一。説明

兒童用書に示したるものは鉛筆畫として野菜類の畫方を
示したるものにして、其の形狀陰影は何れも透視圖法によ
りて畫きたり。本圖を參考として示したる要點は細かなる
部分を略して畫く方法を知らしめんとするにありて、光線

の直射したる部分の線は細く淡く、陰の部分を見す線は太く濃く書き、陰影も主要なるもののみを畫きて、其の他は十分之を略したり。

二. 觀察と畫方

準備したる野菜類を適當の位置に置き、其の形狀・色彩・陰影につきて觀察せしめ、且筆の使ひ方、略し方等につきて問答したる後、兒童用書中のものを參考して任意に寫生せしむべし。

三. 注意

陰影の略し方並びに陰陽の線の畫方につきて注意せしむべし。

彩色は鉛筆にて畫きたる筆意を害せざる程度に於て淡彩

を施し、品物の色の大き様を現さしむべし。南瓜は實を淡橙色、柄を淡黄色にし、玉蜀黍は實を淡黄色、皮を淡橙色にし、酸漿は全部橙色にし、蓮の實は全部淡綠色にし、大根と蕪菁とは莖及び根の頭部を淡綠色にし、柚子は淡黄色と淡綠色とし、豆は淡綠色にし、蕃椒は萼を淡綠色、實を赤の勝ちたる帶赤橙色にし、茄子は萼及び實を青勝ちの帶青紫色の淡色にて彩色せしむるを可とす。

第十三課 果實及び野菜類

寫生 二時間

要旨

鉛筆にて果實及び野菜類を畫く練習をなす。

準備 適宜の果實及び野菜類。

教授

準備したる標本を適當の位置に排置し、其の形狀・色彩・陰影を觀察せしめて後、任意に寫生せしむべし。

第十四課 魚類 (兒童用第九圖)

臨畫 一時間

要旨

魚類の畫方を授けて、鉛筆にて魚を畫く練習をなす。

教授

一. 觀察と説明

手本を觀察せしめ、左上方のものは鯛、鯛の左下方にあるも

のは鰺、鰺の下方は牛尾魚、牛尾魚の右は鯉、鯉の上方にあるものは背と腹とを表したる鰈なることを知らしめ、更に背を畫きたる鰈は平面圖として畫きたれども、其の他は皆透視圖法によりて畫きたることを知らしむべし。本圖に於ては、鰈の腹は白きが故に全部鉛筆の陰影を略し、鰈の背は灰色にして滑なるが故に鉛筆を密に使用して畫き、牛尾魚は表面粗なるが故に鉛筆を粗く使用して畫きたり。鯉と鰺とは背部暗青色にして腹部白く、且其の面滑なれば其の背部は鉛筆を密に使用して濃く畫き、腹部には鉛筆を施さず。鯛は頭部暗赤色にして背部赤く腹部白きが故に頭部には鉛筆を濃く使用したり。

右の觀察をなさしめたる後鉛筆にて畫く場合には、物體面

の滑なると否とによりて鉛筆の使用上に粗密の區別をなすこと及び物體の色の濃淡によりても鉛筆の色の濃淡の區別をなすことを知らしむべし。

二。畫方

大體の輪廓を取りて次第に細部分の形を訂正し、淡彩を施さしむべし。

三。注意

實物の色と鉛筆の色の濃淡との關係につきて十分注意せしむべし。

彩色は鉛筆の筆意を害せざる程度に於て淡彩を施さしむべし。鯛は其の背を帶赤橙色の淡きもの、腹部を淡青色、鰻と鰩とは其の腹部を白く、残し全部を淡青色にて彩色し、鰈の

背と牛尾魚とは赤・黄・青の三色を混じたる灰色、鰈の腹は淡青色と淡黄色とにて彩色せしむ可し。

第十五課 乾魚類

寫生 二時間

要旨

乾魚を畫かしめて、鉛筆にて魚類を畫く練習をなす。

準備 乾魚。

教授

一。問答

鉛筆にて魚を畫きたる注意事項につきて問答すべし。

二。觀察と畫方

準備したる乾魚の各部の形狀・色彩を觀察せしめ、任意に寫生せしむべし。

三。注意

乾魚の表面の粗滑と鉛筆の色の濃淡とにつきて特に注意せしむべし。

第十六課 器物の形 (兒童用第十圖)

説明と考案畫 二時間

要旨

天然物の形を應用したる器物の圖案法を知らしむ。

準備 天然物の形を應用したる諸種の器物。

教授

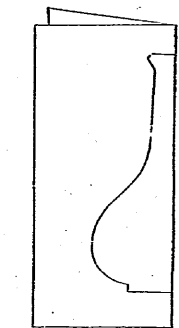
一。觀察と説明

兒童用書に示したるものは、天然物の形を應用して器物の形を考案したる例を示したるものなり。朝顔の花の下に畫きたるものは朝顔の花を水呑と鐵瓶とに應用し、南瓜の下方にあるものは鐵瓶と銅器の如き一輪挿花瓶とに應用し、燕菁は陶器及び銅器の如き花瓶に應用し、蓮の葉と蓮の實とは何れも其の左方にある高杯に應用し、瓢箪は其の左方の花瓶に應用したるものなることを知らしむべし。

かくの如くして考案する時は、如何なる天然物といへども器物の圖案資料たらざるものなければ、兒童用書に掲げたものの外、尙選擇し得る天然物許多あることを知らしむべし。天然物の形より考案したる器物は其の天然物の名稱

を附して朝顔形の菓子器、南瓜形の鐵瓶等と稱す。燕菁の下方に畫きたるものの如きは、燕菁を轉倒して畫きたるものなれば之を逆燕菁形などとも稱す。

二.畫方



先づ如何なる天然物を採るかにつきて考案せしめたる後、便宜コンパス定規類を使用して畫かしめ、或は上圖の如く紙を二折として器物の二分の一の圖を畫き、鋏にて切抜き、之を畫用紙上に載せて其の輪廓を寫し取らしむるも可なり。

輪廓を畫きたる後無地の着色をなさしめ、或は模様を考案して畫かしむべし。

三.注意

土瓶類の如きものを考案せしむるときは、注口の高さと同の高さとの關係に注意して畫かしめ、花瓶類の如きは頭、脚等の區劃を明瞭にして、且各部締りあるものに畫かしむべし。

第三學期

第十七課 田舎の景色 (兒童用第十一圖)

臨畫 二時間

要旨

田舎の景色を畫かしめて、鉛筆にて景色を畫く練習をなす。
教授

一。觀察と説明

前景として道・茅屋・冬枯の樹木・溝・丸木橋を畫き、遠景として溝の向側の岸に沿ひたる道の前方に田圃を隔てて茅屋を畫きたる冬の景色なり。

前景の中央の淡岱赭色は道路を表し、其の左右にある淡黄

色は枯草を表し、屋根の上の淡黄色も屋上に生じたる草の枯れたるものを現したるものなり。道に差出して立てたる國旗の下に柱に結び付けたる淡綠色のものは門松を畫きたるものなり。

前景は人物・屋根裏溝を最も濃く畫きて、壁及び枯草・樹木等を稍淡く畫き、遠景は全體を略、同一の黒色に淡く畫きたることを知らしむべし。

此の景色中、一月の意味を表すために國旗を各戸の軒に掲げ、柱に門松を附け、人物の遊び居れる様を配合したるは最も注意したる點なり。殊に遠景中の人物は此の景色に一層の趣を添へたることを知らしむべし。

次に地平線は遠景の人物の腰の邊にあること、並びに畫面

中に於て前景の家の占領せる面積遠景の家の占むる面積、樹木道溝の占むる面積等につきて其の割合を観察せしむべし。

二.畫方

先づ用紙の下方凡そ三分の一位の處に地平線として横線を書き、前景中の最前方の家の軒・屋根・柱の位置を定め、屋根の勾配を附け、而して後、遠景の家の軒・屋根・柱の位置を定め、右方の溝並びに道の左右兩脇、枯木の大體の輪廓を取り、細部分を書き、左上方より次第に右下方に仕上をなさしむべし。彩色を施すには先づ淡青色にて空色を彩色し、僅に岱赭色を加へたる淡青色にて屋根を彩色し、少しく青色を加へたる淡岱赭色にて屋根裏溝、枯木を彩色し、淡黄色にて枯草

を彩色し、淡橙色にて小屋の壁、橋、道等を彩色し、更に國旗には淡赤色、門松には淡綠色を塗らしむべし。

三.注意

光線の當りたる處と陰影の部との色並びに近景と遠景との色の相違につきて注意せしむべし。

第十八課 組手の工作圖 (兒童用第十二圖)

説明と寫生 二時間

要旨

組手を畫かしめて、一側面の稜を正面の横の稜の延長線に四十五度の角をなさしめたる工作圖法を授く。

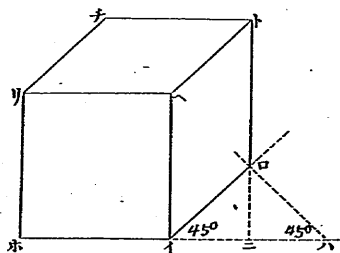
準備 立方體、相缺組手の標本。

教授

一。説明と畫方

此の工作圖法は物體の形狀を表す簡便法なることを知らしむべし。

(一)立方體 本圖は立方體を畫きたるものなることを知ら



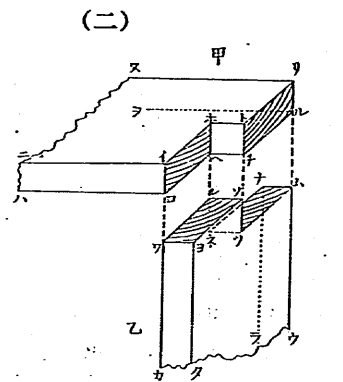
しめたる後、立方體の標本と手本とを對照して立方體の各面及び稜の關係につきて觀察せしむべし。
之を畫くには、先づ正面圖^{イホリ}を實物の一面と同形同大に、或は縮圖して畫き、次に右側面を畫き、更に上面を畫くものとす。右側面を畫くには^{ホイ}を延長し、

側面の奥行の長さ即ち^{イホ}の長さに等しく^ハを取り、^イ點を過ぎて^ハに四十五度の線^ハを畫き、次に^ハ點を過ぎて^ハに四十五度の線^ハを引き、^ロに於て交らしむ。然るときは^ロは右側面の奥行を表したるものなり。依りて^ロを過ぎて^ハに平行に^ロ線を畫き、^ヘより^ロ線に平行に^ハを畫く。上面を畫くには^トより^ハに平行に^ハを畫き、^リより^ハに平行に^ハを畫く。然るときは求むる立方體となる。

右の畫方に於て^ロ線を延長するときは^ハなる二等邊三角形の底邊^ハの中點^ニに於て相會するが故に、此の圖法にて畫きたる圖の側面の^ハと^ロとの稜の距離は實際の長さ即ち^ハの二分の一に相當することを知るべし。依りて^ハなる四十五度の傾斜線を設け、^ロ點を定めて^ロ線を畫く代りに

へとロとの平行線の距離を與へられたる側面の奥行の實際の長さの二分の一に等しくして、ロ線を畫かしむるも可なり。

(二) 相缺組手 相缺の組手を示し之を觀察せしめて看取圖を畫かしめ、製圖上必要なる寸法を測定して記入せしめ、後其の寸法によりて製圖せしむべし。



之を製圖するには、甲圖の如く、面の正面圖を畫き、次にイ・ロ線を引き、奥行の二分の一の長さを定めてロに平行にホ・ヘを畫き、ホ・ヘをイに平行に畫き、ホ・ヘの長さを板の厚さに等しく取り、ト・チを畫き、ト・チをイに平

行に畫き、奥行を定めてルを引き、更に又ニに平行にリ・ルを畫かしむべし。

乙圖は甲圖のロ線を延長して、カを畫き、ソの厚さを定め、カに平行にヨを畫き、甲圖の小口に適當する如く、ソ・レ・フ・ネ・チムの面を畫きて、ナ・ム・ウの線を畫かしむべし。

線描を了りて後、木材の彩色をなさしむべし。

二. 注意

側面の奥行の定め方につきて特に注意せしむべし。

第十九課 煙草盆の工作圖

寫生 二時間

要旨

煙草盆を畫かしめて、側面の稜が正面の横の稜の延長線と四十五度の角をなせる工作圖の畫方の練習をなす。

準備 煙草盆

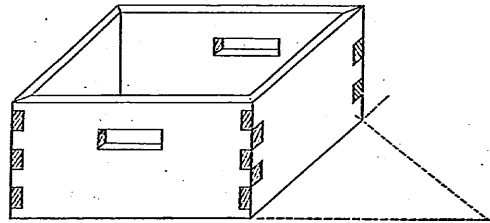
教授

煙草盆を示して兒童各自に之を觀察せしめ、看取圖を畫きて製圖上必要なる寸法を記入し、凡そ上圖の程度に製圖し、寸法線及び寸法を記入して彩色を施さしむべし。

第二十課 模様 (兒童用第十三圖)

考案畫 二時間

要旨



模様の單位を與へて任意の模様を考案せしむ。

教授

一. 問答

尋常小學校に於て授けたる如き、二方に連續したる帶模様、四方に連續したる續模様、一定の輪廓内に當嵌めたる當嵌模様、並びに本學年第八課に於て授けたる繪模様等の組立方につきて復習すべし。

同一色の配合、餘色の配合、類似色の配合等に關し、色の配合の良否並びに彩色の順序等につきて問答すべし。

二. 觀察と畫方

兒童用書に示したるものにつきて、模様の單位を觀察せしめ、其の名稱及び便化の方法等を知らしむべし。

任意の模様を任意の排列法によりて畫かしむべし。
三。注意

本課業に於ては風呂敷、書物の表紙、皿等の品物を限りて任意に考案せしむるも可なり。

課外 鳥の各種の姿勢 (兒童用第十四圖)

參考圖

要旨

鳥類の各種の姿勢につきて特徴を知らしめ、且其の畫方を練習せしむ。

準備 鳥類の標本。

教授

一。觀察と説明

兒童用書に示したるものを觀察せしめ、家鴨・鴨・雁等の丈低き水鳥、鶏の雌雄、小鳥・鳩等の各種の鳥の立ちたる所、木に止りたる所、飛べる所などの姿勢を示したるものなることを知らしめ、次に標本と對照して正面向背面向につきて體の形狀の變化並びに姿勢と體の重心との關係を知らしめ、更に飛べる鳥の翼の恰好、體及び頸の形狀等を觀察せしむべし。

二。畫方

各種の鳥を看取畫の程度に止め、極めて大體の恰好を畫かしむべし。

三。注意

本課は教授時間に餘裕あらば成るべく之を課すべし。
各種の姿勢の大體の恰好は、記憶畫として畫き得る程度まで練習せしめ置くを可とす。

課外 鳥の各部の形 (兒童用第十五圖)

參考圖

要旨

鳥の各部の形を畫かしめて各種の鳥の特徴を知らしめ、且其の畫方を練習す。

準備 各種の鳥の標本。

教授

一、説明

兒童用書に示したる左上方の圖は鸚鵡の頭なり。此の類に屬する鳥は一般に嘴短くして上嘴の先端曲り、眼は嘴に近くして圓く、前頭部著しく突起せり。其の右方の圖は雄鶏の頭にして、嘴は上下の嘴略同じ角度に尖り、目は上下嘴の分れ目の上部に位し、形楕圓形なり。其の右方の圖は鴨の頭にして、其の嘴は扁平にして先端鋭からず、頭は略楕圓形にして、眼は上下嘴の分れ目に近く比較的上方にあり。其の右方の圖は小鳥の頭にして、其の上下の嘴は略同じ角度に尖りて先端甚だ鋭く、且比較的細長なり。眼は大抵上下嘴の分れ目の上方頭の中央に位して楕圓形をなせり。
第二段に示したる左端のものは、攔むことの便なるために前後に二指を有する鸚鵡の脚、次は歩行に適する鶏の脚、次

は游泳に適する水鳥の脚なり。又其の次は小鳥の脚にして指細く且長く樹枝を敏速に掴むに便なり。左下方に示したる頭は鷹、鷲等の如き猛鳥類の頭を示したるものなり。此の類の鳥は嘴大にして殆ど頭の半を占め、上嘴の先端著しく彎曲して鋭く、口廣し。眼は嘴の分れ目の上方に近く位し、眼の上部著しく突出し、奥深き處に眼を輝かし、頭の上部は殆ど一直線をなして一見獍猛の相あり。其の右のものは鳥類の左翼と尾とを畫けるものにして何れも羽の排列の有様を示したるものなり。

二。觀察と畫方

準備したる鳥の各種の標本と兒童用書に示したる圖とを對照し、頭、翼、脚等を觀察せしめて其の特徴を知らしめ、後各

種の鳥の頭、翼、脚を畫かしむべし。

三。注意

前課に同じ。

第二十一課

鳩 (兒童用第十六圖)

寫生 二時間

要旨

鳩を畫かしめて、毛筆にて鳥の全形を畫く練習をなす。

準備 鳩の標本。

教授

一。説明

兒童用書に示したる鳩は稍、正面向の所を畫きたるものな

れば胴の長さ著しく短縮し、頭は頂上のみ表れて卵形をなしたることを知らしめ、且姿勢と脚の位置とを觀察せしめて、是等と體の重心との關係を知らしむべし。

二。觀察と畫方。

標本と兒童用書に示したる手本とを對照して、嘴は細く鼻の部分は著しく突起して恰も麥粒を附けたるが如きこと、並びに頭は他の鳥類に比して著しく圓く後頭部高きこと、眼は楕圓形にして周圍に白の斑あり頭の中央より稍嘴に近き處にあること、頸は細くして胸部高く脚は後方にあること等を觀察せしめ、寫生すべき點と略筆すべき點とを知らしむべし。

次に兒童各自が觀察したるやうに、胴・頭・脚の大體の輪廓を

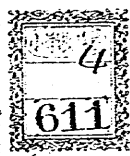
定め、次第に細部分を畫きて、後兒童用書の手本を參考しつつ毛筆にて中墨の線描をなし、嘴・頭・翼・尾・脚の順序に淡色より始めて次第に濃色の彩色をなさしむべし。

三。注意

鳩の眼の位置形狀・方向、並びに脚の位置・形狀は兒童の最も困難とする所なれば特に注意せしむべし。

高等小學新定畫帖 第一學年教師用終

K141.71-3-1a
1a



大正元年十一月廿三日
大正元年十月廿七日
大正元年十月廿四日
大正元年十月廿一日
印刷
發行
翻刻
發行

著作權所有
著作兼
文部省

大正元年十月廿八日
文部省檢査濟

高等小學新定畫帖
第一學年教師用
定價金七錢

翻刻者發行

東京市日本橋區新右衛門町拾七番地3
日本書籍株式會社

印刷者

代表者 大橋新太郎
東京市日本橋區通一丁目拾九番地
大倉保五郎

印刷所

東京市京橋區新榮町五丁目七番地
大倉印刷所

發賣所

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地
株式會社 國定教科書共同販賣所

